

～ 神戸学生イノベーターズ・グランプリ(通称:I-1グランプリ) ～

活動の様子



最終プレゼン

取り組む課題

今年のI-1グランプリのメインテーマは「コロナ禍で打撃を受けた六甲山観光の収益改善」。このメインテーマの下、チーム・レバブルは六甲山アスレチックパークGREENIAの収益改善を課題としました。そこで同チームは、犬を連れて来たり、また当地で犬と遊ぶことのできるプログラムを展開することで、アスレチック施設の新規ユーザーを開拓することを提案しました。



最終プレゼン

本学(学生)の役割

本グランプリでは学生たちに、短期間で、現状分析や市場調査、コンセプト、ターゲット層などをまとめたプレゼンが求められます。残念ながら途中で棄権してしまう学生もいましたが、最後まで出場をあきらめなかった学生は、結果として入賞には至らなかったものの、他のチームとともにグランプリを盛り上げ、六甲山観光株式会社にも新鮮な刺激を与えたものと思われれます。

企画・活動概要

単年度ゼミ(2年生後期)を受講中の学生9名が神戸学生イノベーターズ・グランプリ(通称:I-1グランプリ)に参加しました。このグランプリは、社会に新しい価値をもたらすイノベーション(変革)を起こす知意を備えた人材育成を目的に、学生らしい視点やマーケティング手法を活用して、企業や地域が直面している課題を解決・提案する企画です。9名の学生は2チームに分かれて検討を重ねましたが、最終的には1チーム(チーム・レバブル)が中間プレゼン大会、最終プレゼン会に臨みました。

活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

本コンテストへの参加を通じて、学生が成長した点、身に付けた点は2つあります。
第一に、コミュニケーションスキルの向上です。グループワークやフィールドワーク、そして他大学学生とのプレゼン・コンテスト等を通じて、コロナ禍にもかかわらず他者との濃密な対話を重ねることで、コミュニケーションスキルは格段に向上したと思われれます。その中には自分自身の弱点を把握できたという成果も含まれます。
第二に、仕事の現場を深く学ぶことができたということです。特にフィールドワークにおいて地域の現状を見聞きし、それをベースにアイデアを練り上げた経験は貴重な「ガクチカ」となりました。



フィールドワークの様子(大学HPより)

経緯・背景・目的

単年度ゼミは2年次後期にのみ開催されているゼミであり、主として研究演習II編入への橋渡しを目的としています。そこで本ゼミでは、本学の多様なゼミの形態に鑑み、①座学を中心とするプログラムを学ぶグループと②社会共創活動を中心に学ぶグループに分け、活動を行っています。この②グループがI-1グランプリに参加しました。

指導教員および関係者の紹介

<指導教員>



経済学部
経済学科
准教授
村上友章(ムラカミトモアキ)

<専門・担当科目等>
単年度ゼミ

<関係者・企業等>

六甲山観光株式会社